第五篇　兵　勢

一

孫子は言う。大勢の兵士を指揮していても、少人数であるかのように簡単に指揮できるのは、分数による。分数とは、軍隊を末端まで編成区分して、それぞれに指揮官を置くことである。大勢の兵士を戦わせても、少人数を戦わせているかのように整然と行動させるのは、形名による。形名とは、旗や鐘・太鼓などで命令を伝達することである。三軍（先陣・本陣・後陣）の兵士らを、いかなる敵にも立ち向かって敗れることがないようにさせるのは、奇と正による。奇とは、状況の変化に応じて適時に処置するやり方であり、正とは、定石どおりの一般的なやり方である。我が兵をもって敵を攻めれば、あたかも石を卵にぶつけるかのように撃ち砕くのは、充実した戦力で、空虚で隙だらけの敵を撃つ（虚実）からである。

二

敵と相戦うときは、まず陣形を整え、正々堂々としてみだりに攻めかからず、進退を秩序正しくし、部隊ごとに統制して前に進めて撃つ。敵陣が崩れ始めたならば、こちらも足並みを乱して一挙に攻め寄せる。敵に退却の兆候があらわれたならば、すかさず追撃して勝ちを確かなものにする。正面攻撃では相互に勝敗がつかなければ、先陣で前から攻めるように見せながら、本陣や後陣が側面や背後に回りこみ、敵の

戦意を奪って勝つのである。このように、いかなる戦機も見逃さず、巧みに正から奇を生み出す者の智謀は、広大な天地のようにきわまりなく、大河の流れのように尽きることがない。

三

終わってはまた始まるのは、日と月が交互に出没するかのようであり、死んだようにじっとしていたり、活発に動いたりをくりかえすのは、春夏秋冬が移り変わるかのようである。音階は五つしかないが、その組み合わせによってできる曲は無限にあって聞きつくすことができない。色には青・黄・赤・白・黒の五つの原色があるが、これらがまじりあった色彩は無限にあって見つくすことができない。味は、甘い・辛い・苦い・酸っぱいなどの五つに過ぎないが、これらがまじりあった変化は無限にあって味わいつくすことができない。それと同じように、戦いの勢いは、奇と正の二つをうまく使うことにより生じるのであるが、戦場でこれらを用いればその変化は無限にあって窮めつくすことができない。正が変じて奇となり、奇が変じて正となり、正だけで定まることもなく、奇だけが極まることもない。それは丸い輪に端がなく、どこが始まりでどこが終りとも知れないようなもので、誰もそれを窮めることができない。

四

本来は柔弱な水も、深い谷に満々と貯え、その堤を一挙に決壊させて狭い水路に多量の水を流せば、重たい大石でも漂って転がるほどの

激しい流れになる。これが「勢」というものである。鷹や鷲などが獲物を取ろうとすれば、狙い外さず一撃で獲物の骨や翼を打ち砕く。これが「節」というものである。このように戦いの達人であれば、その勢は盛んにして激しく、その節は敵との間合いを詰めて、近距離から一瞬のうちである。つまり、勢とは大きな弓を張るようなものであり、節とはこれを射ち放って狙い違わず当てるようなものである。

五

それぞれの陣が四方に分散して、前後左右から敵に攻めかかる。陣形を乱しながらも、兵士らは乱してはならないところを踏まえているので、敵によって乱されることはない。不利になれば一箇所に集まり、兵を列ねて円形に陣を敷く。こうすれば全周に隙がないので、たとえ敵に囲まれても敗れることがない。

よく治まった陣から生じる乱れは、本当の乱れではないので、敵は我を乱すことができない。真の勇から生じる怯えは、本当の怯えではなく、真の強さから生じる弱さは深刻な弱さではない。我が円陣を敷けば、弱兵であるがゆえ、敵を恐れて動こうとしないようにさえ見えるが、敵はこれを破ることができないのである。

陣営が治まっているか乱れているかは、「分数」によるものである。兵士らが勇むか怯えるかは、勢いに乗るか遅れるかによるのであり、これが「勢」である。軍隊が強いか弱いかは、兵士が形名に応じて機敏に動けるように教練されているか、敵に負けない態勢にあるかなど

「形」によるものである。

六

それゆえ、人を致して我が思うままに行動させる達人は、敵を引き出したければ、我がそのような形をなし、敵を退けたければそのような形をなして、敵の行動を皆、我の形に従わせる。また、敵にある場所を取らせてその優劣を見ようとすれば、敵は必ずそれを取りに来る。つまり、利益を見せて敵を誘い出し、我は正兵をもってこれを撃つべき好機を待つのである。正兵とは、分数形名を整え、乱れず怯えず弱ならざる兵である。

七

そこで、戦いの達人は勝敗を勢に求めて、兵数が多いことに頼ろうとはしない。だから、優れた兵士を選りすぐり、十分に訓練することで強くし、その勢いに任せて戦うのである。勢いに任せてこれらの兵士を戦わせるありさまは、木や石を転がすようなものである。木や石の性質は、これを平坦な場所に置けば静止して動かないが、急な斜面に置けば動き出し、角ばっていればじっとして動かないが、丸ければ転がって動き出す。これと同じで、選ばれて鍛えられた兵士たちを全力で戦わせれば、その勢いは千仞の高い山から丸い石を転がしたかのように強大なものになる。それが兵の勢いというものである。